

視点3

韓国の保育・幼児教育における「行事」

林志妍
(大学院生)

私は、韓国の大学の幼児教育学科を卒業し、幼稚園教諭として三年間勤め、今は日本の大学院で保育を学んでいます。このような経歴のためか、私は、日本と韓国の保育現場で何を見ても、すぐ両国のことを比較してしまいます。

本稿では、この私の目から見た韓国の保育・幼児教育の行事について少し紹介し、その特徴を日本の保育における行事に照らし合わせて考えてみたいと思います。本稿で紹介する韓国の保育における内容は、私が個人的に観察した時の記録を基にしています。

韓国の保育園・幼稚園の年中行事

韓国の保育園・幼稚園では、二〇一三年に告示された国レベルの教育課程指針の「ヌリ課程」を基にさまざまな年中行事を計画しています。行事の種類や時期は園によってそれぞれですが、一つの例として、釜山市にあるM幼稚園の年間行事計画を挙げてみます。

- 三月 入学式・公園見学
- 四月 父母個別相談・保健所見学
- 五月 子どもの日・公園見学・春の遠足

林志妍 (いむ じょん)
お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科人間発達科学専攻 保育・児童学コース博士後期課程。日韓の保育の比較と学び合いの可能性に関心を持っている。

六月 地域の砂祭り参加・釜山博物館見学・

ジャガイモ掘り

七月 水産科学館見学・家族キャンプ・夏休み

八月 図書館見学

九月 白菜種まき・ミュージカル鑑賞

十月 個別相談・秋の遠足

十一月 UN記念公園見学・家族参観授業

十二月 バザー・クリスマス・冬休み

一月 科学教育院見学

二月 小学校見学・卒業式

M幼稚園のように、韓国の幼稚園では一学年が三月に始まり、二月に終わります。三月に入学し、五月の「子どもの日」を祝う行事をしたり、春の遠足に出掛けたりします。六月にはジャガイモを掘り、七月のキャンプ後に夏休みに入ります。九月には白菜の種をまいたり、十月には秋の遠足をしたりします。十二月には、子どもたちの発表会も含めたバ

ザーとクリスマスのお祝いをし、その後、冬休みに入ります。そして、一月から三学期が始まり、二月の卒業式に向かいます。

学びのきっかけとしての「行事」

M幼稚園の年中行事を眺めてみると、一見韓国の年中行事は日本とあまり変わらない気がします。しかし、注目に値するのは、M幼稚園の行事には、春と秋の遠足以外に月一回の頻度で「〇〇見学」があるという点です。これは韓国の保育の特徴を表していると思います。韓国では、保育計画で「生活主題」（単元に当たります）を中心にさまざまな活動が計画されますが、「〇〇見学」はその月の「生活主題」と強く関連しています。例えば、六月には「夏」という「生活主題」を中心に活動が展開されますが、それに合わせて、地域のビーチで行われる「砂祭り」に参加することが計画されました。一月は「小学校」とい

う「生活主題」に合わせて、「小学校見学」が計画されています。

M幼稚園では十二月に、子どもたちの小さな発表を含めたバザーを開き、保護者の方を誘う行事があります。各家庭で集めた中古の品物を安く売って、その利益金を寄付するのがこのバザーの趣旨です。この行事を行う理由については、M幼稚園の先生は「年長さんたちには、このバザーを通して経済観念を身に付けてほしいです。それで、一週間くらいは『バザー』を主題として話し合いをしました。また、十一月の生活主題『環境と生活』で取り上げた資源の節約の観念等もかわつてくると思います」と説明してくれました。

このようにM幼稚園の先生方は「行事」の教育的意味を「何かについて学ぶ」機会として意識していました。つまり、M幼稚園では、「生活主題」で扱っている内容を実際の体験を通して子どもたちに学ばせることに「行事」

の目的を置いてるように私は感じました。

伝統文化と先祖の知恵を感じさせる「行事」

最近、韓国では、行事を少し違う視点からとらえる動きがあります。それは、従来の保育・幼児教育ではあまり注目されてこなかった韓国の伝統的な行事を園の行事として生かす動きです。釜山市にあるP保育園は、韓国の伝統社会で守られてきた習慣——「歳時風俗」を保育の主な行事として取り入れている代表的な園です。P保育園の年間行事計画を挙げてみます（韓国の伝統的な行事は旧暦に即して行います）。

三月 保護者の集まり

四月 寒食（陽暦四月六日。植樹をし、ヨモギ餅

そば、のり巻きなど冷たい物を食べる。伝統遊びのサギ相撲や摘み草競走等をする）

五月 子どもの日・田植え

六月 端午（旧五月五日）・現場学習

七月 家族音楽会

八月 七夕（旧七月七日）

九月 秋夕（旧八月十五日）

十月 運動会・稲刈り

十一月 家族参観活動・上月（二年中で最高の月と

いう意味で陰暦十月のことを指す。園では餃子スープを食べたり、天地に対して感謝の儀式を行ったりする）

十二月 クリスマス・冬至・キムチ作り・味噌作り

一月 個別面談

二月 お正月（旧一月一日）・卒業式

このように、P保育園では、米作りから味噌作り、端午や冬至まで、伝統的な生活の節目にあった歳時風俗を積極的に取り入れていました。

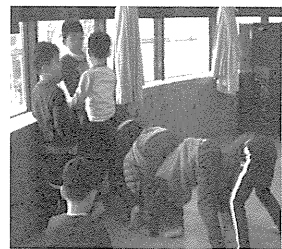
私がP保育園を訪れた日はたまたま「冬至」でした。「冬至」は二十四節気の一つであり、一年中で夜が最も長い日で、韓国では昔から

おしるこを食べて、さまざまな遊びをする習慣があります。そこでP保育園では「冬至」を迎えていろいろな催しをしていました。ホールでは子どもたちが伝統遊び（馬跳び・脚数え等）を体験できる場をつくり、園庭の端では、釜からおしるこの匂いがしました。この日は子どもたちのお母さんやおばあさんも園遊びに来て、おしるこ作りを手伝ったり、一緒に食べたり、伝統の遊びを教えたりしていました。一日中、園には子どもと大人たちのにぎやかな声に満ちた楽しい雰囲気が漂っていました。

園長先生は、このように韓国の伝統的な歳



▲脚数え



▲馬跳び

時風俗を保育の中で生かす理由について、「子どもたちに、われわれの先祖の精神を感じながら、季節の変化に合わせた生活を送らせたいです。そして、安全な天然の物を食べる先祖の知恵を学ぶ機会をつくりたいです」と語ってくれました。このように韓国では、「行事」によって「伝統」の中にある先祖の知恵を子どもたちに伝えていこうとしていました。

日本の保育に照らしてみた韓国の「行事」

私は、韓国の保育園や幼稚園での「行事」の特徴は、「生活主題」や先祖の知恵を学ばせるきっかけとして、積極的に行事を行おうとするところにあると思います。

ところが、日本の保育園や幼稚園の行事を見てきた私は、このような韓国のとらえ方には何だか物足りなさを感じてしまいます。それは、韓国では、行事における子どもたちの経験を行事当日に限定しているような気がす

るからです。少なくとも私が観察した日本の園では、行事当日の経験より、子どもたちが行事を準備する過程で経験する葛藤や悩みを大切にしていました。例えば、私が観察した園の先生たちは、発表会に向けて練習している子どもたちが、緊張して言えなかったセリフをスムーズに言えた時の喜びを何より大事にしていました。私は、このような「行事」のプロセスを大事にする姿勢は、今後韓国の保育・幼児教育においても生かす必要があると思います。

日本と韓国の保育において「行事」への考え方が少し違うとしても、両国の子どもたちが、日常とは違う特別な「行事」をいつも楽しんでいることには変わりがありません。子どもたちの好きな発表会や運動会など、その中に潜んでいる保育的な意味について探り出し、十分生かしていくこそが、日韓の保育者の共通の仕事ではないかと思えます。